

実践報告

インターンシップによる外国人留学生の日本での 就職に対する意欲の変化について — 終了後のアンケート結果から —

正路 真一・福岡 昌子・松岡知津子

Effects of Internship on International Students' Motivations to Work in Japan: Post-internship Questionnaire Research

SHOJI Shinichi, FUKUOKA Masako, MATSUOKA Chizuko

〈Abstract〉

The objective of this research is to investigate whether an experience of internship in Japan would motivate international students to obtain a full-time job in Japan. The results of the questionnaires for the international students who participated in internships show that the motivation increased for a half of the students, yet the motivation was not high enough for them to decide to work in Japan. Moreover, motivations of the students, who had already had clear career plans in the future, did not change before and after the internship.

キーワード：インターンシップ、留学生、就職、アンケート、意欲の変化

1. はじめに

本稿は、三重大学地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門が、外国人留学生を対象として実施した、三重県内企業・団体でのインターンシップ終了後のアンケートの結果に基づいて、外国人留学生たちの就職に対する意欲にどういった変化が見られたかを調査したものである。ここでいう意欲の変化とは、彼、彼女らがインターンシップの経験を通して、日本で就職したいという意欲が増したか（または意欲が生まれたか）、またインターンシップ先の企業に就職することについて欲が増したか（または意欲が生まれたか）ということである。

2. インターンシップの効果

2014年に文部科学省・厚生労働省・経済産業省がまとめた「インターンシップの推進に立っての基本的考え方」¹⁾によると、インターンシップに参加することにより「学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の

育成が図られる。また、これにより、就職後の職場への適応力や定着率の向上にもつながる」ことがインターンシップの効果として挙げられている。また、日本人学生のインターンシップを対象とした先行研究²⁻⁴⁾によると、インターンシップに参加することにより、「働くことは楽しいと思った (pp.69-70)」²⁾、「社会人になることが楽しみになってきた (pp.175-176)」³⁾「就職活動への意識が高まった (p.33)」⁴⁾、「こういう職場で働きたいと思えるインターンシップだった (p.33)」⁴⁾ などとする学生の感想が多く報告されている。こうした報告は、インターンシップが就職に対する学生の意欲を増すことを示唆している。

本稿は、前段の先行研究が主張しているような、インターンシップによって就職意欲が喚起されるという効果が、筆者らが実施している外国人留学生を対象としたインターンシップにおいても得られたか否かを調べたものである。本稿の調査対象としたのは筆者らが 2017 年度以来継続的に実施しているインターンシップ事業の中で、特に 2018 年度後期から 2019 年度にかけてのインターンシップに参加した留学生のアンケート回答に基づくものである。これに先立って、2017 年度から 2018 年度に実施したインターンシップ事業では、その参加学生の多くが短期留学生、交換留学生であったことから、就職につながるものとしてよりも日本語演習の場としてインターンシップを実施したのだが、参加留学生へのアンケートの中で「就職に役立つ」という感想が散見された⁵⁾。そこで 2018 年度後期からのインターンシップにおいては、終了後アンケートの質問を改定し、就職に関する質問を加えた上で実施した。その就職に関する質問への回答と考察を、本稿で報告する。

3. インターンシップの概要

インターンシップ終了後アンケートに回答した外国人留学生の基本的情報とその受け入れ先企業・団体、およびインターンシップ時期・日数を表 1 にまとめる。表 1 の「受け入れ企業・団体」の列には同じ企業または団体の名前が複数回現れているが、これは同一の企業・団体が複数回インターン留学生を受け入れたことを意味する。また、「インターン留学生の出身国・性別」の列にはアルファベットが付記されているものがあるが、これは同一の留学生であるか否かを示すものである。例えば「韓国・男 A」が複数回現れているが、これは同一人物であり、「韓国・男 B」とは別人である。従って、この報告の対象となった受け入れ企業・団体は計 9 つ (延べ 14) であり、インターン留学生は計 14 名 (延べ 17 名) である。このうち、⑪の韓国人学生の時期・日数として、もともとの日数を短縮して中止したという記述があるが、これは、当該留学生がインターンシップ初日終了後に残りの日程の参加を止めたいと申し出たものである (理由は表 3 の回答 b を参照)。

大部分のインターン留学生は留学期間が 1 学期ないしは 2 学期の短期留学生であるが、

これは筆者らが受け持つ授業を受講している学生の大多数が短期留学生であるため、口頭で参加を呼びかけることができたのが主に短期留学生であったことに起因すると思われる。なお、本インターンシップ事業に関連するその他の詳細（インターンシップの時期と期間の設定、インターンシップ事前学習としてのビジネス日本語講座の実施等）は別稿⁵⁾に詳しく報告されている。

表1 インターン留学生と受け入れ企業・団体一覧

受け入れ企業・団体（受け入れ時期・日数）	インターン留学生の出身国・性別（短期・正規）
① 国際交流団体（2018年度11月・5日間）	韓国・男A（短期留学生）
② 日韓交流団体（2018年度11月・1日間）	韓国・男A（短期留学生）
③ 日韓交流団体（2018年度11月・1日間）	中国・女A（短期留学生）
④ リゾート宿泊施設（2018年度11月・5日間）	中国・女B（短期留学生）
⑤ 観光施設（2018年度3月・5日間）	タイ・男A、タイ・男B（短期留学生）
⑥ IT企業（2019年度5?7月・10週間）	フランス・男（短期留学生）
⑦ 日韓交流団体（2019年度6月・2日間；ただしスウェーデン出身の学生は初日だけ参加）	韓国・男B（短期留学生）
	イギリス・女A（短期留学生）
	スウェーデン・女A（短期留学生）
⑧ リゾート宿泊施設（2019年度6月・4日間）	イギリス・女A（短期留学生）
⑨ 国際交流団体（2019年度6月・5日間）	スウェーデン・女A（短期留学生）
⑩ 農業関係企業（2019年度7月・1日間）	中国・男A（短期留学生）
⑪ 国際交流団体（2019年度7月・1日間；もともと3日間の予定だったものを初日限りで中止）	韓国・女（正規学部生）
⑫ 英会話教室（2019年度8月・3日間）	インドネシア・女（正規大学院生）
⑬ 国際交流団体（2019年度11月・4日間）	中国・女C（短期留学生）
⑭ リゾート宿泊施設（2019年度11月・4日間）	中国・男B（大学院研究生）

表1に示されたインターンシップの終了後に、参加留学生を対象としてアンケートを実施した。実際のアンケートでは11個の質問を設けたが、問1~11のうち、就職に関わるものは下の問5、6、7の三つである。

- 質問5. 日本で就職することについて、今、どう思いますか。（回答選択肢を選び、その選択肢を選んだ理由を自由記述）
- 質問6. インターンシップをして、日本で就職することについて気持ちが変わりましたか。（回答選択肢を選び、その選択肢を選んだ理由を自由記述）

- 質問 7. 今回インターンシップをした会社に就職したいと思いますか。(回答選択肢を選び、その選択肢を選んだ理由を自由記述)

この三つ以外の質問の結果についての考察は稿を改めることとし、本稿はこの質問 5、6、7 に絞ってインターン留学生の回答を報告、考察する。なお、質問 5、6、7 以外の質問と回答選択肢を含めたアンケートの全体^{註1}については文末注に示す。

4. アンケート調査の結果

4.1 日本で就職することについてどう思うか

この節では、「5. 日本で就職することについて、今、どう思いますか」という質問に対する留学生の回答を報告する。この質問に対して筆者らが与えた回答選択肢と、その回答選択肢を選んだ理由を書かせた自由記述回答を含め、表 2 にまとめて記す。それぞれの自由記述回答の後に回答学生とその学生のインターンシップ先を付記する。また、自由記述回答に併記したインターンシップ先と学生情報は (「①国際交流団体/韓国・男」など)、表 1 と対応している。なお、自由記述回答における日本語の文法、語彙等の間違いについては、筆者らが修正の上表に記述する。

表 2 アンケート結果：質問 5「日本で就職することについて、今、どう思いますか」

回答選択肢	回答数 (計 14) および自由記述回答 (左の回答選択肢を選んだ理由)
a. 日本で実際に就職したいと考えている	回答数 4 (28.6%) ● 自由記述回答： ・インターンシップの雇い主や周りの田舎の人が優しかった。伊勢志摩で、このゲストハウスのような仕事をして働きたい。(⑧リゾート宿泊施設/イギリス・女 A) ・日本の仕事の習慣が好きだから。(⑥IT 企業/フランス・男) ・日本の先進技術を学びたいから。(⑦日韓交流団体/韓国・男 B) ・家族の原因 (③日韓交流団体/中国・女 A)
b. 日本で就職することに興味はあるが、まだ実際に就職するかどうかわからない	回答数 5 (35.7%) ● 自由記述回答： ・就職についてまだ考えていないから (⑭リゾート宿泊施設/中国・男 B) ・日本で就職するか母国で就職するかまだ考えている。(④リゾート宿泊施設/中国・女 B) ・日本の会社の給料、福祉の情報がわからないからまだ悩んでいる。(①国際交流団体・②日韓交流団体/韓国・男 A) ・自分の力がまだ足りないと思う (⑤観光施設/タイ・男 A) ・インターンシップの仕事は楽しかったがまだ分からない (⑦日韓交流団体・⑨国際交流団体/スウェーデン・女 A)

c. 日本で就職することに興味はあるが、多分しないと思う	回答数 3 (21.4%) ● 自由記述回答： ・母国で国際交流に関わる仕事がしたいから。(⑬国際交流団体／中国・女 C) ・他にやりたいことがあるから。(⑤観光施設／タイ・男 B) ・記述なし (⑩農業関係企業／中国・男 A)
d. 日本で就職したいと思わない	回答数 2 (14.3%) 自由記述回答： ・記述なし (⑪国際関係団体／韓国・女；⑫英会話教室／インドネシア・女)

表 2 に示される回答を、日本での就職に意欲的な回答（「a. 日本で実際に就職したいと考えている」）、日本での就職に意欲的でも消極的でもない回答（「b. 日本で就職することに興味はあるが、まだ実際に就職するかどうかわからない」）、日本での就職に消極的な回答（「c. 日本で就職することに興味はあるが、多分しないと思う」および「d. 日本で就職したいと思わない」）の 3 種類に分けると、その回答数は順に 4、5、5 と均衡した結果となった。

日本での就職に意欲的な回答（選択肢 a）をした 4 名の学生、および意欲的でも消極的でもない回答（選択肢 b）をした 5 名の学生の自由記述回答の内容は様々であり、一定の傾向を見出すことはできなかった。（また選択肢 a を選んだ中国人の女子学生 A の「家族の原因」という自由記述回答は、その意味するところが不明である。）一方、日本での就職に消極的な回答（選択肢 c, d）をした 5 名の学生のうち 2 名（⑬国際交流団体／中国・女 C；⑤観光施設／タイ・男 B）は、自身に明確な目的意識があり、それが日本での就職に繋がらないという点で共通している。また、日本での就職に消極的な学生には、自由記述回答の記述がない学生が 2 名いた。

4.2 インターンシップをして日本で就職することに対する気持ちが変わったか

この節では、「6. インターンシップをして、日本で就職することについて気持ちが変わりましたか」という質問の回答を表 3 にまとめて報告する。ただし、当該質問への回答が、「日本での就職」に対する気持ちというよりも、質問 7 で聞いている「インターンシップ先への就職」に対する気持ちを書いていると判断される学生がおり（⑧リゾート宿泊施設／イギリス・女 A など）、これらの学生は質問 6 と質問 7 を混同している可能性があることを留意する必要がある。

表 3 アンケート結果：質問 6「インターンシップをして、日本で就職することについて気持ちが変わりましたか」

回答選択肢	回答数 (計 14) および自由記述回答 (左の回答選択肢を選んだ理由)
a. 就職したいという気持ちが増した	回答数 7 (50.0%) ● 自由記述回答： ・インターンシップ先で、田舎の人々が優しく、協力して働いていることを知った。自然環境にも恵まれた人々が良い雰囲気を作っており、私もその中で働きたいと思った。(⑧リゾート宿泊施設／イギリス・女 A) ・インターンシップ先の職場の雰囲気が良かったから。(①国際交流団体・②日韓交流団体／韓国・男 A；⑤観光施設／タイ・男 A) ・社員の方々が優しくかったから。(③日韓交流団体／中国・女 A；④リゾート宿泊施設／中国・女 B) ・インターンシップでやった、外国人を助ける仕事が、自分が求めている仕事だった。(⑦日韓交流団体・⑨国際交流団体／スウェーデン・女 A) ・記述なし (⑭リゾート宿泊施設／中国・男 B)
b. 就職したいという気持ちが減った	回答数 1 (7.1%) ● 自由記述回答： ・インターンシップ先の 1 人の職員の、人を見下す態度が嫌だったから。(⑩国際関係団体／韓国・女)
c. 変わらない	回答数 6 (42.9%) ● 自由記述回答： ・もともと日本で働きたいと思っていた。(⑥IT 企業／フランス・男) ・もともと日本で就職する意思はない (⑫英会話教室／インドネシア・女) ・インターンシップ先の仕事は自分の専攻とは関係なかったから。(⑦日韓交流団体／韓国・男 B) ・記述なし (⑤観光施設／タイ・男 B；⑩農業関係企業／中国・男 A；⑬国際交流団体／中国・女 C)

表 3 に示される回答を、日本での就職意欲が増したことを意味する回答（「a. 就職したいという気持ちが増した」）、日本での就職意欲が減退したことを指す回答（「b. 就職したいという気持ちが減った」）、変化がなかったという回答（「c. 変わらない」）の 3 つに分けると、その回答数は順に 7、1、6 となっている。就職意欲を削がれた留学生は 1 人しかおらず、留学生のインターンシップ経験が、就職意欲を増進したかあるいは変化を与えなかったかのどちらかであるという結果が得られた。

4.3 今回のインターンシップ先の企業・団体に就職したいと思うか

この節では、「7. 今回インターンシップをした会社に就職したいと思いますか」という質問の回答を表 4 にまとめて報告する。この質問に関しては、複数のインターンシップに参加した学生がそれぞれのインターンシップ先について異なる回答をしている場合（韓

国・男 A；スウェーデン・女 A）と、複数のインターンシップに参加した学生が一つのインターンシップ先についてのみ回答した場合（イギリス・女 A）とを含んでいるため、回答数は延べ 16 となっている。

表 4 に示される通り、インターンシップ先への就職に意欲的な回答（「a. したいと思う」）は 6 名、消極的な回答（「b. したいと思わない」）は 9 名、そのどちらでもない回答（「c. 分からない」）は 1 名であった。つまり消極的な回答が優勢となった。

インターンシップ先に就職したいと思うと回答した学生の理由は様々であり、一定の傾向を見出すことは難しい。一方インターンシップ先に就職したいと思わないと回答した学生は、大きく 2 つのグループに、つまり他にやりたいことがあることを理由に挙げた 6 名の学生と、インターンシップ先の仕事が自分の目指すものでなかったことを理由に挙げた 3 名の学生に分けられる。

表 4 アンケート結果：質問 7「今回インターンシップをした会社に就職したいと思いますか」

回答選択肢	回答数（計 16）および自由記述回答（左の回答選択肢を選んだ理由）
a. したいと思う	回答数 6（37.5%） ● 自由記述回答： ・雇い主や周りの田舎の人が優しかった。（⑧リゾート宿泊施設／イギリス・女 A） ・人と関わる仕事が素敵だと思ったから。（①国際交流団体／韓国・男 A） ・母国の文化を紹介することに興味が湧いたから。（⑦日韓交流団体／韓国・男 B） ・インターンシップでやった外国人を助ける仕事が、自分が求めている仕事だった。（質問 6 の回答と同じ）（⑨国際交流団体／スウェーデン・女 A） ・記述なし（②日韓交流団体／韓国・男 A；⑩農業関係企業／中国・男 A）
b. したいと思わない	回答数 9（56.3%） ● 自由記述回答： ・日韓関係に限らない国際的な仕事がしたいから。（⑦日韓交流団体／スウェーデン・女 A） ・自分がやりたい仕事は、インターンシップ先でやった業務とは違ったから。（⑥IT 企業／フランス・男） ・他にやりたいことがあるから。（⑬国際交流団体／中国・女 C；⑤観光施設／タイ・男 A；⑤観光施設／タイ・男 B） ・母国で就職したいから。（⑫英会話教室／インドネシア・女） ・ホテル業は体力的にしんどいから。（⑭リゾート宿泊施設／中国・男 B） ・自分は中国人だから、インターンシップ先である韓国系の団体には適さない。（③日韓交流団体／中国・女 A） ・インターンシップ先の職員の、人を見下す態度が嫌だったから。（質問 6 の回答と同じ）（⑪国際関係団体／韓国・女）

c. 分からない	回答数 1 (6.3%) ● 自由記述回答： ・日本で就職するか母国で就職するかまだ考えている。(質問 5 の回答と同じ) (④リゾート宿泊施設/中国・女 B)
----------	----------------------------------------------------------------------------------------

5. 結語と課題

本稿は、外国人留学生を対象としたインターンシップが、留学生の日本での就職意欲に変化を与えるかどうかを調べたものである。結論としては、変化を与えられる学生は一定数いるものの、インターンシップの前に既に自分がやりたいことを確立している学生には変化が見られないとまとめられる。ただし、本調査の中で未だ不明な点は、前章の最後に述べた「日本での就職意欲の増減に寄与する最も大きな理由は、インターンシップ先企業の職員の親切さや職場の雰囲気の良さであるが、これが必ずしもそのインターンシップ先への就職意欲に繋がるわけではない」という点かと思われる。インターンシップ先の職員が親切で職場の雰囲気が良いことによって、日本で就職したくはなるが、そのインターンシップ先には就職したくないとは、筋が通っていないように思われる。この結果をもたらした留学生の心理を解明することが今後の課題である。

注

アンケート全文は以下の通りであった。

1. どんな仕事をしましたか。
2. インターンシップの全体的な感想を教えてください。
 - a. とても良かった
 - b. まあまあ良かった
 - c. 良くも悪くもなかった
 - d. あまり良くなかった
 - e. 全然良くなかった
 - f. その他：_____

→ どうしてその回答を選びましたか：
3. 大変だったことは何ですか。
 - a. 仕事がつまらなかった
 - b. 仕事がいそがしかった
 - c. 仕事がむずかしかった
 - d. 日本語がむずかしかった I
 - e. 会社の人とのコミュニケーションが難しかった

- r. 通勤が大変だった
 - g. その他： _____
 - h. なかった
4. インターンシップをして、前より日本語が上手になったと思いますか。
- a. 上手になったと思う
 - b. 変わらないと思う
- どうしてその回答を選びましたか：
5. 日本で就職することについて、今、どう思いますか。
- a. 日本で実際に就職したいと考えている
 - b. 日本で就職することに興味はあるが、まだ実際に就職するかどうかわからない
 - c. 日本で就職することに興味はあるが、多分しないと思う
 - d. 日本で就職したいと思わない
- どうしてその回答を選びましたか：
6. インターンシップをして、日本で就職することについて気持ちが変わりましたか。
- a. 就職したいという気持ちが増した。
 - b. 就職したいという気持ちが減った。
 - c. 変わらない
- どうしてその回答を選びましたか：
7. 今回インターンシップをした会社に就職したいと思いますか。
- a. したいと思う
 - b. したいと思わない
 - c. わからない
- どうしてその回答を選びましたか：
8. このインターンシップを、後輩の留学生におすすめしますか。
- a. おすすめする
 - b. おすすめしない
- どうしてその回答を選びましたか：
9. このインターンシップを、後輩の学生がすることが決まったら、その後輩にアドバイスはありますか。
10. このインターンシップについて、「改善したほうがいい」、「直したほうがいい」と思うことは何ですか。
11. その他のコメント・感想

参考文献

- (1) 文部科学省・厚生省労働・経済産業省：インターンシップの推進に立っての基本的考え方 (2004) (http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/sanshou_kangaekata.pdf 2020年6月4日閲覧)
- (2) 佐藤博樹・堀有希衣・堀田聡子：人材育成としてのインターンシップ, 労働新聞社 (2006)

- (3) 浅海典子：学生にとってのインターンシップの成果とその要因,国際経営フォーラム, Vol.18, pp.163-179 (2007)
- (4) 平尾元彦：インターンシップの就職活動への影響－山口大学 2010 年度 4 年生へのアンケート調査と内定状況調査に基づく考察－, 大学教育, Vol.8, pp.29-36 (2011)
- (5) 正路真一・福岡昌子・松岡知津子：外国人留学生を対象とした三重県内インターンシップ実践：留学生を対象としたアンケート結果から, 三重大学国際交流センター紀要, Vol.14, pp.37-51 (2019)